

2012 青年春闘アピール決議

「つづけよう 復興支援！なくそう 原発！」 ～青年の力で、笑顔で働き安心して暮らせる社会をつくる 2012 青年春闘～

「残業代を出してください！」「有休をください！」「正規社員にしてください！」「産休・育休をください！」「ボーナスをください！」「時給を、上げてください！」「非正規でも暮らせる賃金を」…これは 11 月に開催した全労連・全国集会 2011 の青年分科会で出された声です。雇用と生活、日本の将来の行く末に決断が下されようとするなか、今こそ、労働組合に結集する私たち自身が、この素朴な声を大きな運動へと発展させることが求められています。

政府は、東日本大震災の復興と原発事故の収束、日本経済の再生を口実として、庶民増税・社会保障改革・TPP の参加・憲法問題・米軍基地の問題、労働者派遣法など、雇用と生活を大きく左右する課題について急速に具体化を始めています。一方、これを許さない運動も各地で起こっています。原発問題では、原発ゼロをめざす 7.2 緊急行動、9.19 原発さようなら集会、なくせ原発 10.30 大集会 in ふくしまなど、全国各地で原発ゼロをめざす集会が無数に開催されています。TPP の問題では、44 都道府県で「参加反対」「参加慎重」の決議をあげているほか、JA 中央会が取り組んだ「TPP 参加反対」の署名は 1167 万筆が集約され、参加反対の国民は拡大しています。

また、格差と貧困に反対する「ウォール街を占拠せよ」の運動は米国内だけでなく世界中に広がっています。青年大集会 2011 で連帯挨拶をしたアメリカと韓国の代表は、「高失業率・低賃金・学生ローンの返済・環境破壊など、どの国の青年も厳しい状況を強いられています。私たちの未来を私たちの手で勝ち取りましょう」と訴え、私たちはこれに大きく励まされました。

このような情勢のもと、全労連青年部第 28 回代表委員会にて、学習企画として「青年層は労働組合をどう見ているのか～労働組合の発展へ向けて～」と題して労働総研の若い研究者から学生や若い組合員の労働組合に対するイメージについての意識調査の結果を講演していただきました。そして、討論では「青年部は少しでも学び、それを単組へ返していくことが最大の任務だ」「人のつながりを広げるとともに原則的なとりくみ、要求を愚痴としてとらえず夢としてとらえよう」「職場での要求をくみ上げることが重要」など、率直な悩みを共有しつつ、さまざまな工夫を凝らして青年部活動に取り組んでいることが熱く語られ、討論を通じて、全国の仲間とのつながりを実感しました。

この春闘で、産別・地域のタテ糸とヨコ糸を強く結び、すべての働く青年の生活と権利のために、そして日本の未来のために、おおいに要求を語り、政治を語り、政治変革の世論を広げていきましょう。格差と貧困、生活危機を突破するため歴史的な青年春闘をたたかいぬくことを、ここに決意します。

2011 年 12 月 4 日

全国労働組合総連合青年部第 28 回代表委員会